

川越氷川祭の山車行事

毎年十月の第三土・日曜日（十四日が土曜日の場合）第二土・日曜日）に開催される川越まつり。昨年二月二十一日に、「川越氷川祭の山車行事」として、国の重要無形民俗文化財に指定されました。

川越まつりの起源は、江戸時代初期にさかのぼります。慶安元年（一六四八）、城下町の整備を行っていた川越藩主・松平信綱は、みこしや獅子頭などの祭礼道具一式を川越氷川神社に寄進しました。そして、商人や職人の町であった十ヶ町に、秋の例大祭をするように促したのがきっかけと伝えられています。

川越は、江戸に最も近い城下町でした。そのため、川越まつりは天下祭と呼ばれた赤坂山王祭や神田祭の影響を受けつつ、時代と共に発展しました。二重ほこ型といわれる山車は、当時の影響を今に残しています。

祭りが近くなると、神幸祭が通る道の端に紅白幕を張り巡らします。そして、山車運行の責任を担う鳶を中心
に会所の設営、「きつくみ」と呼ばれる山車の組み立てが行われます。祭り当日、山車に乗る囃子方を、近くの農村地区から招いている町が今でもあります。



今や川越の代名詞ともなった「川越氷川祭の山車行事」。江戸型山車の巡行する都市型祭礼の代表といえるでしょう。

姉妹都市から、こんにちは！



小浜市城内・香川昇さん

およそ370年の歴史を持つ雲浜獅子は、笛・太鼓の囃子に合わせて舞う獅子舞です。若狭小浜に国替えとなった酒井忠勝に随行した、川越の「石原のささら獅子舞」の演技者により始まりました。その後、小浜に根付き、昭和32年に福井県の無形民俗文化財に指定されました。ことしも5月2日・3日に行われた「お城まつり」で、子どもの獅子舞と大人の獅子舞が上演されました。雲浜獅子が代々受け継がれてきた歴史の重みを感じるとともに、これからも大切に伝えていきたいと思っております。

*外国籍市民の皆さんを対象にした催しは11ページ・14ページ、相談は22ページをご覧ください。

国際交流課国際交流担当・内線2141

どんぐり

編集後記

「安比奈親水公園で頂いた苗木が大きくなり、花がたくさん咲きました」。市民の方から市役所にアヤメとオダマキの花が届けられ、市長室などに飾らせていただきました。家庭における緑化の推進を目的に、昭和58年から始まった苗木配布事業。ことしの春の配布は、みどりの日の4月29日に川越駅西口と南文化会館で行いました。川越駅西口では、配布開始は午前10時からにもかかわらず、1時間前には約130人の長い列。苗木が成長して、生活に潤いを与えてくれる日が楽しみです▶連休中は、春まつりの取材に出かけました。一番街周辺を腕章をしてカメラを持って歩いていると、各所で道案内を頼まれました。観光客1千万人を目指す川越。広報に携わる者として、これからも川越について勉強していきたいと思っております。